

まちの将来像 → 災害に強く 安心して 住み続けられるまち

まちづくりの目標

目標実現に向けたまちづくりの取組み

災害に強いまちをつくる

○緊急車両が円滑に通行できる骨格のみちづくり

- 消防活動困難区域を解消するなど、地区の骨格となる道路幅員6m以上の防災生活道路を整備します。（防災生活道路の整備により期待される効果 参照）
- 防災活動拠点(モンチッチ公園)に連携する道路ネットワークを整備します。
- 歩行者の安全性等に配慮して、「堤防道路」の相互通行化を検討します。

○防災性の高いまちづくり

- 建物の不燃化や建替えを進めて災害に強いまちなみを形成します。
- 狭隘な道路や行き止まり道路などを解消してまちの防災性を向上します。
- 震災時の倒壊や死角等による防犯上の懸念を解消するため、高い塀からフェンスや生垣へ改修するなど、建替え時のルールを定めます。

防災生活道路の整備により期待される効果

■本地区の現状の課題

令和元年度に区が実施した調査によると、本地区内には車同士のすれ違いが難しい4m未満の細街路が多く、消防活動困難区域も発生しています。



※消防活動困難区域とは？
消防自動車の出入りができる幅員6m以上の道路からホースが到達する距離140m以上離れた区域を指します。

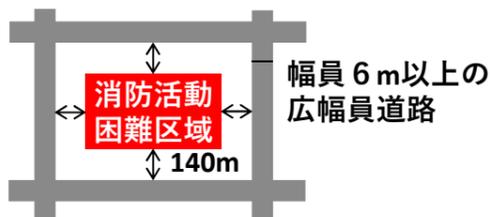
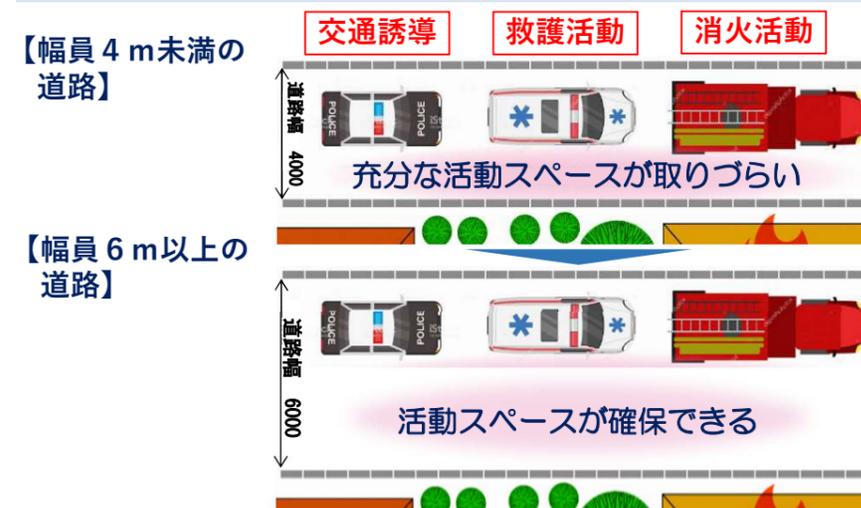


図 消防活動困難区域イメージ

■道路幅員6m以上の防災生活道路の整備効果

緊急車両の活動スペース（例えば、消防車による消火活動スペース（ホースの設置・取り回しなど））が確保できます。



本地区の防災生活道路の整備ルートのご参考ください。

■主な取り組み

【西新小岩五丁目地区全体の取り組み】

- 建物の不燃化などの建替えのルール作り
- 細街路（2項道路）の拡幅
- 災害時に活用できる公園や広場の確保

